

会 議 録

議事録名		部長	課長	係長	係	記録
佐久市保健福祉審議会 保健部会						
日 時	令和4年11月7日	場 所	501 会議室		時 間	10:00～12:10
出席者	○委員 堀内ふき委員、関さゆり委員、石山道泰委員 木村春江委員、岩下幸子委員、吉岡由美委員 ○事務局 健康づくり推進課長、健康づくり推進課課長補佐、 健康増進係長、健診推進係長、保健医療政策係長、 健康増進係員、福祉課地域福祉係長、社協地域福祉係長				出席委員	6名
					欠席委員	4名
					事務局	名
提出資料	資料 1-1 第四次佐久市地域福祉計画（佐久市地域福祉活動計画）（素案）＜抜粋＞ 資料 1-2 第四次佐久市地域福祉計画（骨子案）に対するご意見等（部会審議後に寄せられたもの）と対応方針 資料 1-3 第四次佐久市地域福祉計画 ＜部会ごとの審議対象＞ 資料 1-4 第四次佐久市地域福祉計画（素案）に係る意見・修正等 資料 2-1 「自殺総合対策大綱」のポイント 資料 2-2 第二次佐久市自殺対策総合計画の施策方針について（案） 資料 2-3 第二次佐久市自殺対策総合計画（素案） 資料 2-4 第二次佐久市自殺対策総合計画（素案）に係る意見・修正等 資料 2-5 第二次佐久市自殺対策連絡協議会（骨子案）に対するご意見等（部会審議後に寄せられたもの）と対応方針					
○次第						
1 開会						
2 自己紹介						
3 審議会・部会の概要説明						
4 職務代理者指名						
5 会議事項						
<ul style="list-style-type: none"> ・第四次佐久市地域福祉計画（素案）について【資料1】 ・第二次佐久市自殺対策総合計画（素案）について【資料2】 ・その他（マイナンバーカード取得促進に関するお知らせ） 						
6 閉会						
○議事録（質疑応答）						
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">第四次佐久市地域福祉計画（素案）説明</div> ＜基本目標1 基本方針1「地域を支える人・組織づくり」について＞						

- 委員 コロナ禍で色々な活動がストップしている。3年経つが足踏み状態で、今まで公民館活動等していた人たちが引いてしまっている。後が続かずに途切れてしまう状況が起きてくると、活動がない状態が当たり前になってしまう。地区のサロン等、「もし何かあったら」と考えると一歩踏み出せず、活動のハードルが高くなってきているように感じる。しかし、長い目で見ると、ひきこもりやフレイルという状況に繋がったり、地域の人の状況が見えなくなったり等、マイナス面も大きいため、歯がゆさを感じる。
- 「認知症サポーター養成講座」を受けたからといって地域の支え手になる事は出来ないのでは。(素案P.16) キャラバンメイト養成講座を行う事で、メイトを増やしていき、オレンジカフェに参加してもらうなどが良いのでは。
- 事務局 ご意見を参考にし、各取組みの中でコロナ禍を意識した対策について考えていくよう、各所管へ促していきたい。
- 介護予防・地域活動に関わる人材育成については、担当課に伝え対策を深めていきたい。
- 委員 市の計画が、どのように市民に伝わるのかという部分も大事であると感じる。例えば、地域包括支援センターは事あるごとに周知されているが、知らない人も多い。
- 委員 地域活動への参加のきっかけづくりが大事である。広報や回覧などで、行政が情報を出していても、読む気がなければ読まない。自分は順番等で回ってくる役を受け、参加したことで行政の役割を知った。そういった事がきっかけとなり興味を持つと、広報紙も見ようという気になる。きっかけは強制的でも、そこに紐づけしてもらおうと良いのでは。
- 委員 6年前に佐久にUターンして地域活動に参加している。シニア世代は積極的に参加している事に驚いたが、現役世代で仕事をしている人は、地域活動に何とか参加しよう、という意識が足りないと感じる。若い世代は、SNSや市のホームページを見ており、整備はされていると思うが、もっと、入口となるアイキャッチのインパクトが出てくると、見てももらえるのでは。広報紙で役の研修会などの内容について周知して広まれば、現役世代でも興味を持つ人が増えるのではないか。
- ウィズコロナの中では、具体的な計画を立てていく中で課題が多いが、やり続けていかないと広がっていかないと感じる。
- 委員 役を引き受ける人は、退職して地域貢献しようと思い、受けてくれている印象がある。受けてみると、地域に対する理解が深まり良いが、もう少し、働き盛り世代の人が行政に関わってほしい。仕事をしていて難しい状況も分かるが、企業の協力が必要であると感じる。コロナでは、国が行動制限を言わなくなったが、佐久市でも会合等をやってください、と言ってもらえると良い。先日、大きな会を開くため役員が準備していたが、「こんな時期になぜ行うのか」という反対が少しでも出てきてしまうと、その意見が強くなってしまい難しいと感じた。
- 委員 地域包括支援センターでは、手厚く対応をしてくれる。「利用してみて、～が良かった」という利用者サイドの声を取り入れた発信をしていくと良いのではないか。
- 委員 コロナの対策については、何を守ってどこまで自由、という具体案を明確に伝えてもらえると良いのでは。活動しながらどのように対策していくか、という状況になってきている。

佐久大学では、ボランティアセンターが出来た。今後地域活動への活発な参加に繋がればと考えている。

認知症を学ぶことは、相手を尊重する事や代理決定など倫理的な面や、最期の判断について考えるなど、ケアについて学べると同時に、生活習慣病や閉じこもりが認知症の発症に影響する事も分かっており、健康づくりの面においても重要な学びであると考えている。認知症サポーターについては、住民の何%が受けているのかという視点も重要。限定されたある地区だけでも、住民皆が知識を持っていると、災害などで意識が変わるというデータが出ている。

事務局 現役世代の参加が低いという課題は、対策が薄い部分もあり、もう少し踏み込んだ取り組みが必要であるため、検討していきたい。また、認知症サポーター養成講座の受講率については、新たな視点であり、参考にさせて頂きたい。

<基本目標1 基本方針2「福祉の心の育成」について>

<基本目標3 基本方針1「地域における健康づくりの推進」について>

委員 コロナについては先が読めずに、結論は出ないが、その時の状況に応じて、出来る事をやっていくしかない。

委員 浅科のとある地区で、今年2回サロンを開催していた。人数や時間を分けるなど制限し、間隔を空けて座る等、工夫していた。運営側は大変だが、やると地域の人同士の会話の場となっている貴重な機会と感じた。反対意見がある中で実施するのは難しいとも思うが、運営側は、環境を整えてやり続けていくという気持ちが必要であると感じる。

委員 栄養士会では、人が集まる場所（交流センター・スーパー・温泉等）を借りて佐久保健所管内にてイベントを開いている。フレイル予防の面で高齢者はタンパク質摂取が必要なため、そういった機会を通じて啓発している。

委員 オンラインではなく、実際に見てもらって感じる部分も大きいので、コロナ禍では小規模でやっていくという事もよいのでは。佐久大学では認知症カフェを最大20名と限定し、月1回実施している。少しでも体調が悪い場合は参加を見合わせてもらう等、工夫している。

会合については、マスクを外すタイミングで一番感染リスクが高くなるため、出来るだけ飲食しない様な形で交流が行えると良いのでは。

フレイル予防の面では、高齢者は元々他のリスクを持っているため、閉じこもる事による影響が大きく、基礎疾患が悪化して亡くなる方も多い。フレイル予防のためにも、何らかの活動を通じて高齢者の外出機会を作る事は必要である。

委員 会合等については、各地区などで工夫した例を周知してもらえると、他の地区で生かせるため、検討してもらいたい。

第二次佐久市自殺対策総合計画（素案）説明

委員 経済状況と自殺の相関がある事が分かっており、今回、勤務者・経営者に対する取り組みが新たに含まれた事や、取組みが細かく丁寧に書き込まれている点が良いと感じる。自殺者数は徐々に減ってきているが、色々な対策をした事で結果が出てきていると考えて良いか。

事務局 国では、自殺対策基本法が成立した平成 18 年と比べると、自殺者数は 3 割以上減少しており一定の効果があったと考えられると評価している。市においても、市民アンケート結果より、「ひたすら耳を傾けて聞く」等の望ましい対応について知っている割合が増えている事等から、市で行っている対策によって一定の効果があったのではと捉えている。

委員 コロナ禍によって、不登校やいじめ問題が増えてきているとニュースで読んだ。それにより、命に関わる問題に発展しているのが約 340 人と知り、数の多さに驚いた。これからの日本を担う子ども達が日本に生まれて良かった、と思えるような施策に力を入れてもらいたい。

委員 コロナ禍で人数は増えたが、経年で見ると減少してきており、この取り組みを継続してもらいたい。具体的には、ティッシュの配布がリーフレットよりも手に取りやすさがあって良かったと感じる。

事務局 ティッシュは、若者対策で成人式でも配布している。今後も、色々な手法を通じて周知できるように考えていきたい。

委員 教職員がモンスター保護者の対応に追われ、子どもに対応出来ないという事が起きているのではないか。

事務局 ゲートキーパー養成研修会の中に、まずは自身の心身を整える事、相手の普段の様子の変化に気づく事などの要素が多く含まれているため、子どもたちの SOS をキャッチ出来るよう、引き続き教職員に対してもゲートキーパー養成研修会を実施していきたい。

(以上)